

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：化学兵器廃棄の動きとジュネーブ国際会議開催準備

12月17日、化学兵器禁止機関（OPCW）執行理事会は、シリアにある危険度の高い化学兵器を国外に搬出し、米国が提供する船舶で処理する案を承認した。サリンの原料など危険性が高い約500トンの化学物質をラタキアの港から年末までに運び出し、伊国の港で米国の船に積み替える。ラタキアの港までのシリア国内の輸送は米国が担当する。ロシアは、陸上輸送を支援するようだ。デンマークとノルウェーは、米国の船舶までの運搬作業を担う。残りの化学物質約800トンの一部は2014年2月5日までにシリア国外に搬出し、国内に残す分も含めて6月末までに廃棄を終える予定である。

12月2日、米国は化学兵器を海上で処理するための船の準備作業を開始したと発表した。同日、OPCWは、シリアの化学兵器の国外処理に向けた運搬資材がダマスカスに到着し始めたと発表した。

シリアが申請した化学兵器の廃棄準備作業が進む一方で、12月5日、シリア反体制派は、ダマスカスの北にあるナバクで、政府軍が化学兵器を使用したと非難した。また12日には、国連専門家チームが、化学兵器使用の疑惑のある7カ所について調査した結果として4カ所で使用された可能性が高いと発表した。これらの場所は、アレッポ近郊のKhan al Assal（3月19日）、イドリブ県のSaraqeb（4月29日）、ダマスカス東郊外のJobar（8月24日）、ダマスカス郊外Ashrafiah Sahnaya（8月25日、シリア軍兵士に対して）。2013年にシリアで化学兵器使用が確認あるいは使用した可能性が高い地域は計5カ所になった。

ジュネーブ国際会議をめぐる動き

11月25日、国連事務総長は、ジュネーブ国際会議を2014年1月22日に開催すると発表した。その後、同日ジュネーブでは、大規模な時計市が開催されるためホテルが満杯状態であることが明らかになり、12月17日、国連は、同会議を、1月22日にスイス西部レマン湖に面するモンルーで開催すると発表した。協議は24日からジュネーブの国連欧州本部で継続される予定である。

12月18日時点では、同会議の開催日の先送りの議論はない。シリア政府側は、バッシュャール・アサド大統領の退陣を前提にしない条件で、会議参加の用意を表明している。反体制派は、12月末の会合で国際会議に参加するかどうかを決めるとしている。

欧米諸国では、シリア内戦で、イスラーム過激派の勢力が増大していることへの懸念が増大している。シリア内戦が、アサド政権、独裁体制と戦う世俗勢力、イスラーム国家の創設を目指すイスラーム過激派による三つ巴の戦いの様相を強める中、内戦の停止・終了と新しいシリアの政治体制構築をめぐる議論は、より複雑になる可能性がある。12月12日、NSA長官やCIA

長官を歴任したマイケル・ハイデンは、米国で開催された対テロセミナーでの講演で、おぞましい選択肢であるがバッシヤール・アサド大統領の生き残りも選択肢としてあると述べている。17日にはシリア国民連合筋が、12月前半にロンドンで開催されたシリア友好国会合で、欧米諸国から、シリアの秩序維持を考えるとアサド政権が存続することを支持するとのメッセージを送られたと述べている。

(中島首席研究員)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799